巻　頭　言

『心理相談室研究　第23号』をここにお届けいたします。

大学院生、研修生の事例論文に貴重なコメントをいただきましたコメンテーターの先生方には心よりお礼申し上げます。また、日頃から本学の大学院生、研修生の相談事例に対してご指導をいただきお支えいただいているスーパーバイザーの先生方にも改めてお礼申し上げます。

2021年度は、前年度に引き続き、コロナ下の感染状況に応じた理相談室の運営を行ってまいりました。2021年度の11月より、密を避けるために隔週で実施していた継続相談の頻度を、毎週に戻すと同時に換気と消毒時間を確保するため45分間の面接時間に切り替えました。一時的に変則的な対応により、継続相談の頻度をコロナ前の状況に近づける工夫をいたしました。

また、前年度は開催を見送ることとなった夏の心理相談室ウィークの無料相談ならびに公開講演会を、今年度は開催することができました。特に講演会はオンライン配信の形による初の試みとなりました。さらに、７月には、本学の修了生と在学生の合同事例検討会である「みつば会」の開催を、外部の先生をお招きしてオンライン形式で行うことができました。

10月には、本学の國吉教授が中心となって、CARE の専門家向けのオンラインワークショップも開催されました。これらのオンライン形式の研修会の導入により、遠隔地にいる方々はじめ、対面形式では参加が難しい方への研修機会が開かれる良さも感じられました。PCIT（親子相互交流療法）の相談事例では、引き続きオンラインセッションも取り入れながら進めています。

このように、本学心理相談室では、感染防止対策を講じながら、利用者の方々にとって意義のある相談活動の提供ができるように、また広く地域貢献できるように努めています。また、同時に教育機関として本学の大学院生、修了生の方々にとって実りある教育機会を提供できる場として活動を模索して参りました。今年度は当心理相談室への相談申し込み数も増加の一途をたどり、特に親子関係をめぐる相談が増えているように思われます。コロナ下における人々のストレスや心の問題は長期的に続くと考えられ、心理相談室としてこの状況下の人々の心の問題に真摯に向き合っていきたいと思います。

2021年12月頃からはオミクロン株の感染拡大もみられ、まだまだ感染状況は予断を許さない状況ですが、引き続き、スタッフの皆様と協力しながら、心理相談室の活動を安全な形で進められるよう、鋭意努めたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

神戸女学院大学大学院心理相談室
室長　須藤　春佳